



さくらば節子市政報告

平成24年 第2号
特集：9月定例会

1. 9月定例議会：討論の特徴

9月定例議会は前年度の決算を監査して適正かどうかの討論をするための議会です。予算は適正に執行されたのか、計画された事業は予定通り進んでいるのか、全ての行政分野で問題はないのかどうかをチェックする時です。各常任委員会に付託された案件はそれぞれ二日間みっちりとかけて質疑応答がなされました。所管事務調査を含め、質問は多岐にわたりましたが、ここでは特に取り上げるべき大きな論点について報告します。

センター病院の消費税過払い問題：厚生常任委員会

これはすでに多くの皆さんが御存知かと思いますが、平成18年に市が行った病院事業を指定管理者制度に移行した時の問題です。当時、委託料として一括して支払われた金額に消費税が課税されました。ところが委託料中の医師などの人件費分を分けて別に支払い、残りを委託料として支払う方法もある事を後で発覚したのです。弁護士などに助言をいただきながら、新しく指定管理者と契約をし直した結果、現在は無駄な税金を支払う必要がなくなりました。しかしもうすでに支払ってしまった税金については、高田税務署を通して国に返還の要求をし続けたものの、国は上越市の要求を認めず却下。支払われてしまった1億2390万円はもう戻ってこないのです。

委員会ではこのことの責任がどこに

あったのか（担当職員の怠慢なのか、国の指導不足なのか）、また責任の取り方はどうするかという質問と、再発防止のための職員教育をどうするのか、また国に対してこれ以上の提訴をするつもりはないのか、を鋭く問われました。そして討論を重ねた結果、委員会では市職員の取った行動に違法性や不正が無いこと、また別の方法が発覚した時点からの対応は最善を尽くしたものであったことを認め、職員の処分は追求しないことを決めました。

また今後のさらなる訴訟に関しては、すでに多くのアドバイザーから指摘を受けており、費用と勝訴の可能性から判断してこれ以上訴訟を続けないことをやむなしとしました。ただ、市長自らが自治体の首長として、何らかの責任行動をとるべきだとする意見も出てきて、これに関しては委員全員の意見の一致をみることが無く、市長の采配にゆだねられます。今後は再発防止のための職員教育に努力することを要求してこの件は終了いたしました。

厚生産業会館(仮称)：建設企業常任委員会

以前から再三「建設に当たっては慎重に進めて欲しい」と言う要求があったにも拘らず、行政側からはさらに突っ込んだ提案（高田公園内プール跡地に建設場所が提案）がなされました。年内に(3面へ)

2. 私の一般質問（9月21日）



私は今回以下の三つの点について市長に質問いたしました。

- 1) 行政改革の進捗について
- 2) 新幹線新駅周辺の開発状況について
- 3) 子宮頸がん予防ワクチンの問題点

ここでは1)について詳しく書きます。27年度から普通交付税の段階的縮小が始まります。約80億円と言う多額です。いよいよ節約できるところをきっちりと管理して、財政の合理化を進めて行かなくてはなりません。市は大きく分けて、以下の方法で経営改善を目指します。

- 公の施設再配置（廃止、指定管理など）
- 事業計画の見直し、縮小
- 人件費の見直し

しかし、多くの市民はいまだにこれらの合理化に同意してはいません。今まで近くにあって使っていた施設が廃止されることは、残念で淋しいものです。また今でも介護保険料の高さに悲鳴を上げているのに、これからは市税も上がるのではないかと不安を感じています。さらに合併前町村では、地域の事情を知る市職員が減っていき、総合事務所がやがて統合されて、自分たちの地区は切り捨てられるのではないかと、市の提案に抵抗する様相を見せています。

そこで市長にはこの市民の抵抗の原因

はどこにあると考え、どう対処していくつもりかを訊ねました。市長の答は「市の財政状況を丁寧に市民の皆様に説明してご理解をいただく。そしてこの状況を正しく超えることで上越にどんな未来を築いていけるかを、お伝えすることだと思う。」というものでした。

私は「市長のお答は正しいけれども、それでは不足である。市民を本当に納得させられない。市民に我々と一緒にこの難局を乗り切って欲しい、痛みを分かち合ってほしい、と頼むのであれば、何よりも先にしなければならないのは、市長をはじめとする市職員の給与体制の見直しではないのか。」と訊ねました。

市長は「市民と職員が相対する形ではなく、同じ方向を向いて共に問題を解決する協調の姿勢が大切だ。人員削減をして職員には今まで以上の仕事量が課せられている。今は職員の給与体制を見直すつもりはない。」と答えられました。

「民間の平均年収は市職員よりもはるかに低い。民間の事業者は命を削って従業員の生活を守っている。市民の血税をいただいて働く我々なら、民間よりも厳しい自己責任が課せられてしかるべきではないのか。その検証が十分されているか。確かに職員の給料を10%カットしても、全体から見ればそれほどの額にはならないかも知れない。しかしその行為が市民に送るメッセージは甚大であると思う。そうすることによって、市長と市職員がどのような覚悟で行政改革に向かっているのかを、市民は理解するだろう。大鉦を振るう勇気をもって欲しい。」

時間切れで、これ以上は進みませんでした。職員には聞きづらいことでも、正面きって対処すべき問題です。このことは今後も市長に要求していくつもりです。

(1面の続き)

はパブリックコメントを実施して次春には設計に入るということでした。これには反対意見が続出。「場所や施設の在り方についてもっと話し合うべきだ」、「民意がまだはっきりしていない。施設の建設の是非も含めて時間をかけて話して欲しい」と再度のお願いになりました。

その他

文経常任委員会では、新幹線新駅付近の開発の現状、また学校現場でのいじめや不登校の実情と対策に、時間をかけた質疑が繰り広げられました。特にいじめに関しては委員たちの関心が高く、「上越市では本当に現状把握ができていますか」など、教育長が幾度かに渡り丁寧に

答える場面がありました。

総務常任委員会では、昨今の異常気象に伴い万全の災害対策を取ることを求められました。第4次行政改革推進計画についての質問が続きました。特に13区の総合事務所の業務集約に質疑が集中しました。13区の生活に関すること、豪雪問題、地滑り問題、田畑農業等、は特に産建グループにお世話になります。「産建グループの業務集約を諮問を受けた地域協議会は、どう受け止めているか。どんな話し合いが持たれているのか。」多くの議員がこの件で質問しました。このほかにも、第三セクターの持株会社化に関して問題点が提起され、多角的視野から活発に論議されました。

3. 責任の取り方

責任を取る…小さくは家庭から大きくは国家の問題まで、私たちが生きていくうえではどこかで必ず経験することです。

自分が決定したことには責任を持つと言う原則から見ると、大きな決定権を持つ人ほど難しい立場に立たされます。私はどんな組織であれトップに立とうという勇氣を持った方には、心底頭が下がります。

さて、仕事において失敗した時に責任を取る、ということを考えてみます。減給や降格と言う厳しい措置を取ってその責任の所在を明らかにすることもあります。それが問題が解決したことにしてはいけなくて、二度と同じ過ちを起こさないことが重要だということは自明です。理由も十分配慮せずに形だけ責任を取らせると、組織内部にトップへの不信感が生まれ、問題を隠蔽する体質が生まれてしまうこともあります。

今回の消費税過払いの問題、準備不足の中で期日を急いで事業を運んだこともあって、失敗してしまいました。そもそ

もたぶん職員には失敗という認識もなく、より良い方法を見つけたことを喜んで市民に報告したのだと思います。そこに悪意がなかったこ

とは自明です。そしてそれ以後も相応の取り組みをしてきたと思います。ですのでこれは責任の所在の問題ではなく、再発防止のためにどう対処するかが問われているのです。

職員に取組み方を訓示するだけでいいか、それ以上の行動をとるか。どちらが学習効果をあげ、意識を高められるか。

もう一つの観点は、市民の目に市長の取る行動がどのように映るのか…です。今後の行財政改革を断行していくには、市民との一体感の醸成は不可欠です。市民にきちんと説明できているか、理解が得られているか…。難しい決断ですが、市長の手腕が問われていると思います。



4. 新会派「みらい」を結成（8月9日）

突然でしたが、内山米六議員、中川幹大議員と私の三名が新会派を結成しました。会派名は「みらい」です。

私たちは政治的な立ち位置が少し違うところもあるのですが、「話し合った後での違いは、お互いの意見を尊重しよう」という合意のもとに結成した会派ですので、どんな案件にも忌憚のない意見をぶつけ合おうと思っています。

大潟区の内山米六代表は、落ち付いた中庸な人柄の中にも、奥には激しい正義感を隠し持つ現代の勇者です（年齢より中身は若い）。直江津地区桑取出身の中川氏は事務局を担当。どこから来るのか、抑えきれないエネルギーで何事にも120%尽くすような勉強家のガッツマンです。私は新人なので一から十までお二人に教えてもらっています。



ちょっととぼけていておっちょこちょいの私にとっては必要なお二人だと信じています。今後は会派で皆様の地区におじゃましようと思いますので、よろしくお願いします。

さくらば節子 市政報告 平成24年第2号

発行日：平成24年10月10日

発行：さくらば節子

住所：〒943-0648

上越市牧区小川1590番地

電話・FAX：025-546-7835

電子メール：

office@sakuraba-setsuko.jp

公式サイトもご覧ください。
<http://さくらば節子.jp>

女性の声を市政に

随想

我が家の伝統は山登りである。悩みがあった時、夫婦で一緒に山に行った。苦しい坂を登りながら、時には手を引いてもらい、やっと山頂に立った。見下ろすと、今まであんなに苦しく感じた山道がきれいな筋になって、自分の足元までつながっている。自分の悩みが少しだけ小さくなったように感じた。それとも自分の心が少しだけ大きくなったのかな…。

子供を授かってからは、週末になると山に出かけた。背中におぶったり乳母車で押したりしながら、なるべくたくさん自然の空気の中で過ごした。この子が大人になっても、この大自然の美しさを知って強く生きて欲しいと思ったからだ。

子供に命についてゆっくり教えてあげようと考えた今年の秋、乗鞍に登山した。途中までは車で行くので、実際に山を登ったのは1

山登り

時間半ほどだったろうか。いやいや登っていく彼を前から引っ張り、後ろから押して何とか頂上にたどり着いた。山頂は快晴なのに風が寒く、思わず身を寄せ合った三人。でもこの達成感はやっぱり何にも代えがたい。

この夜、息子は私達夫婦から、私たち親子がどのような因縁で結びつけられたのか、自分がどんなに望まれて生まれてきたのかを聞いた。「父さん、母さん、皆に愛されて生まれてきたんだね。」 そうだよ！

人はたくさんの人に必要とされながら、やっと生まれてきたんだよ！だから、苦しい時はそのことを思い出して、周りに生きている人たちに感謝しよう。命を大切にしようね！

